

## 国際バカロレアに関する調査・研究報告（概要）

### I グローバル人材の育成に向けて

#### ○ 国の動向

- ・「国際バカロレアを中心としたグローバル人材育成を考える有識者会議」（平成29年3月設置）  
学習指導要領との親和性を高めた国際バカロレア教育の国内での普及を期待

#### ○ 県の取組

- ・平成29年度重点的な取組  
生徒の国際交流や異文化理解への意欲の喚起／生徒の英語力、コミュニケーション能力の向上／教員の英語力と英語指導力の向上

### II 国際バカロレアの概要

#### ○ 国の方針

- ・「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」（平成25年6月閣議決定）  
平成30年までに国際バカロレア認定校等を200校とすることを目指す

#### ○ 国際バカロレアとは何か

- ・国際バカロレア機構（本部ジュネーブ）が提供する国際的な教育プログラム
- ・全人教育を通じて、主体性を持ちバランス感覚に優れた、国際社会に貢献できる人材を育成
- ・最終試験に合格すれば国際的に認められる大学進学資格（国際バカロレア資格）が取得可能
- ・3つの教育プログラム（プライマリー・イヤーズ・プログラム（PYP、3～12歳）／ミドル・イヤーズ・プログラム（MYP、11～16歳）／ディプロマ・プログラム（DP、16～19歳））
- ・平成27年度から、DP科目の一部を日本語で実施可能とする日本語DPが開始されている。

#### ○ 教員の養成・確保

- ・外国人教員の雇用はDPの場合は10人程度、2科目のみ英語による授業実施となる日本語DPの場合は3人程度が一般的

#### ○ 設置者の経費負担等

- ・認定校になるまでには2年間程度の準備期間が必要
- ・申請費や年会費、国際バカロレア機構による評価訪問費などの経費や、施設・設備（Wi-Fi環境や実験室等）の整備が必要

#### ○ 大学入試における取扱い

- ・国内では、51の大学でDP修了生対象の入試を実施（平成29年10月現在）
- ・海外では、入学審査に加え、2年次入学、DP上級レベル科目の単位認定や奨学金給付等に活用

#### ○ 導入の状況

- ・認定校数は46校（PYP22校、MYP14校、DP33校。平成29年6月現在）、そのうち1条校は20校

### Ⅲ 国際バカロレア導入の可能性

#### ○ 導入する意義

- ・国際バカロレア教育の普及は、グローバル化した社会において求められる人材を育成するための教育だけでなく、学習指導方法の改善と教員の資質・能力の向上に資する。

主体的・対話的で深い学びの実践／論理的思考力の養成／英語力の養成／探究学習の県下への波及

#### ○ 導入に係る課題

- ・経費は、どのような形態（プログラム、教員、施設・設備等）にするのかにより異なる。

※既存の校舎を活用したDP（外国人教員による授業実施）の場合

初期投資（設備整備、申請費等）2千万円程度、認定後の経費（外国人教員人件費、ワークショップ受講費、年会費等）で毎年1億円程度（概算）となる見込み

- ・教員の養成、外国人教員の確保、生徒の確保、進学希望への対応、学習指導要領と国際バカロレアのカリキュラムの両方を満たす教育課程編成が課題としてあげられる。

#### ○ 岡山県での導入を想定した検討

- ・6年間を見通して計画的な探究学習や高い英語力の養成が期待できることや、MYPを導入しDPを意識した指導が可能であること等から、中高一貫教育校への導入が望ましい。
- ・探究学習の指導実績、生徒の国際交流への高い意識や、一定の英語力がある学校が望ましい。
- ・本県の環境や県立学校の状況等から、日本語DPの実施が現実的である。
- ・国際バカロレアを導入し教育を実践していくに当たっては、導入・運営に関する経験が豊富な人材の登用が重要である。

#### ○ 岡山県における国際バカロレア導入に関する整理

- ・国際バカロレアの有効性は認めるが導入に係る課題は大きく、直ちに導入することは難しい。
- ・近県の公立学校の導入予定校において、認定後に、どのような教育内容を実践し、その成果はどういうものか、県下全体へどのような教育効果をもたらすかを注視して、引き続き、本県への導入について検討を深める必要がある。
- ・今後は、国際バカロレアの教育効果に関する研究や導入可能性の検討が必要であり、学校において研究することが望まれる。
- ・その他のグローバル化に対応した教育の内容・方法として、教科学習と連動させながら、次のような優れた探究学習の取組の充実・発展、他校への普及が必要である。

SGH（スーパーグローバルハイスクール）、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の課題研究／地域の課題を自らの課題として捉え、地域の人と関わりながら、主体的にそれらを解決する学習（地域学）／SDGs（持続可能な開発目標）の観点を取り入れたESD（持続可能な開発のための教育）の取組